

かずさの博物誌

キンクロハジロ

～金色眼のシックなカモ～

文・写真／成田篤彦

2013.3.20



▲キンクロハジロ＝カモ目カモ科、マガモより小さい。潜水採食カモ。
〈2012年11月20日木更津市〉



▲スズガモ＝カモ目カモ科、潜水採食カモ。
〈2012年11月4日木更津市〉



▲えさをとるキンクロハジロの雌
＝〈2012年4月12日袖ヶ浦市〉

昨年の晩秋、満潮時に小櫃川河口に行ってみた。船着き場の手前で、スズガモが二羽、伸びあがり、勢いをつけて潜水し、数十秒後にカニをくわえて浮きあがってくる。それを何度もくりかえしていた。

河口の中央には三羽のカモが寄り添って泳いでいた。その中の一羽は頭、背、胸が黒色。虹彩が金色、くちばしが空色で、その先端が黒色である。「スズガモか？」と思った。だが、この一羽が、髪の毛を輪ゴムで後ろに縛って束ねているように垂れ下がっていた。これを鳥類学の専門用語では冠羽という。

スズガモとキンクロハジロは背や脇腹の色、くちばしなどの形や色彩はそっくりである。ただ、キンクロハジロは頭の後ろに垂れ下がる冠羽

がある。そこが、違うだけである。この一羽はキンクロハジロの雄だ。他の二羽は全身が茶色で、くちばしの根元付近が白色を帯びているので、雌だと思う。

三羽のキンクロハジロは海へ流されないように穏やかに泳いでいた。雄の頭に陽が当たり、紫色を帯びて、金属色に輝いていた。黒色と空色と白色の組み合わせがシックで、冠羽が可愛らしい。

ちなみに、キンは金色の虹彩、クロは背や胸の黒色からきているらしい。ハジロとは羽白の意味。飛ぶときに開いたつばさの中に白い太い線がでることから付けられた名である。

さて、カモ類はえさの採り方の違いから水面採食カモ（淡水カモ類）と潜水採食カモ（海カモ類）に大別される。

水面採食カモはオナガガモやカルガモ、マガモなどで、逆立ちしてお尻を水面から出し、首を伸ばしてえさをとり、からだ全部を水中に潜らすことはない。えさは水草などの植物が大部分である。



▲休息するキンクロハジロ＝〈2013年1月4日富津市〉

一方、潜水採食カモは潜水がたくみで、スズガモ、ホシハジロやキンクロハジロが含まれる。

キンクロハジロは昼間を中心に潜水して貝や小エビ、カエル、ゲンゴロウなどを採る。貝は硬い殻のまま飲みこみ、砂のう（砂の入った鳥の胃袋）のなかで砕く。

泳ぎがうまく潜水時間は十五〜四十秒ほどだという。

上総では十月〜四月頃まで、河口付近や公園の池やダム湖などで見られる。時には頭を背に入れて休息している約一〇〇〜二〇〇羽の群が見られる。

オナガガモなどと共に人が与えるえさにもっともよく慣れる種で、公園では人気者だ。

皆さんも一度、羽冠を確かめて、真っ黒な頭に、金色の虹彩をもつ、キンクロハジロを見てみたいかがでしょうか？意外に可愛らしいですよ。

memo

キンクロハジロ
（金黒羽白）

全長約四十〜五十cm。冬鳥として北海道南部から沖縄に飛来する。北海道では一部で繁殖。ユーラシアの北部で繁殖し、冬季は南方へ渡る。
参考文献 金田彦太郎・一九九六・海カモ類・日本動物大百科3巻鳥類I